

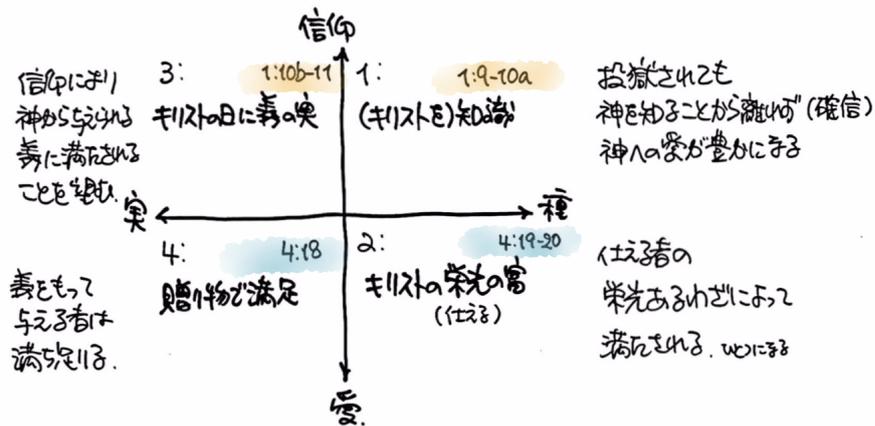


ピリピ人への手紙 1-4章
ピリピ人への手紙の祈り

予想：手紙の中は祈りは、この手紙の全体概略になっている。

2016.3.16

ピリピ 1:9-11 / 4:18-20



予想です。手紙の中、ピリピとかガラテヤとかローマとか。手紙の中にある祈りが、その手紙全体を表している。その概略と一致しているというはずだという予想です。他の手紙を何個かやったことがありますけれども、今回はピリピから始めました。

ピリピの「祈り」と言っているのが1章9節から11節。「私は祈っています」という箇所と、最後のところは、どうかというのは、4章20節しかないのですが、最後のまとめ、祈りに入るところは、(4章)18節から20節と考えています。最初の1章のところは2つ、最後も2つのポイントがあります。ピリピは、1章、2章、3章、4章に分けました。祈りも4つの段落があります。4節あると考えると、最初の1章の祈りの2つが、1章と3章。最後の4章の祈りが、4章と2章とがクロスしていますけれども、そのことがここに書いてあります。

例えば、1章9節から「あなたがたの愛が、真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが真にすぐれたものを見分けることができるようになります。」これが、1つ。その中を、全体の段落の中のキーワードと内容を見てまとめてみると、確かに、投獄されている。苦しみにあっている。福音のために投獄されているけれども、確信はますます深まって、感謝と賛美で歌っている。その歌っているというのは、神を知っている。神様は誰かを知っている。キリストの救いが私たちの救いとなるということを知っている。その知っていることから離れないので、神への愛が豊かになる。これは、ローマ人への手紙の5章、8章でまとめられているところを思い出せ

ばわかる。もしくは、思い出すように書かれているところです。そういうような形で、他のところも見えていくことになります。

2章は、仕える者の話をしています。仕える者の働き、その栄光あるわざによって、栄光の富を与えてくださった。ご自分のいのちを与えてくださったことによって満たされます。

(3章は)義の実に満たされている者となるというのが、1章(10-11節)にあります。キリストの日には。信仰によって、神様から義と認められる、義が与えられる。その信仰によって神様から義が受けられますよということを望んでいる。その最後の日の望みのことを3章で話しています。

4章は、お互いに贈り物を贈りあってくれているので、私は満ちあふれていますという献金の話をしていますけれど、4章4節からと8節からのところを見ると、山上の説教を思い出すような感じです。「神の国と神の義を第一に求めるなら与えられます」与えられますということと、使徒行伝の20章で言われている「受けるよりも、与えるほうが幸いです」という両方のことを言っています。神の義を求める。義を行う者は、与える者ですから、憐れむ者は満ち足りますというのが、4章ということで、この1章の祈りと4章の祈りで、全体が構成されているというように見てみました。